

高浜4号制御棒落下

ケーブル接触不良原因

関電

たケーブルには約90%の負荷がかかっていたとし「発電所の施工時からこの状況

だと考えられる。適切に施工していれば発生しなかった」と説明。経年劣化が原因ではないとの認識を示した。

高浜4号機は1月30日、原子炉内で中性子量が急激に減少したことを知らせる警報が作動し、自動停止した。
(岩淵善郎)

関西電力から7日、県に入った連絡によると、高浜原発4号機（加圧水型軽水炉、出力87万瓩）の制御棒1本が落下し原子炉が自動停止したトラブルは、原子炉格納容器貫通部にある電気ケーブル接続部の接触不良が原因と推定した。関電は同日、原因と対策を取りまとめた報告書を原子力規制委員会に提出した。

接触不良はケーブルの接続金具に覆われた部分で発生した。これまでの調査で判明した電流値が低下した回路のケーブルには、別のケーブルの束が覆いかぶさっており、その重みによって接続部のはんだ付けが割がれ、電流が流れにくくなったとみている。この回路は今後は使用せず、予備の回路に切り替える。美浜、大飯両原発でも定期検査時にケーブルの敷設状況を確認する。

関電は、電流値が低下し